

第一部 ことばの典礼(ことばの食卓) 開祭(の儀) 5 栄光の賛歌 6 集会祈願

開祭の目的・・・一致するため、神の言葉を正しく聞き、感謝の祭儀をふさわしく行うよう心を整える

- 3 回心の祈り・・・ミサに相應しい心で参加するために、心を清める(神社の入り口の水)
前回のミサから1週間、あるいは1カ月の自分の生活を振り返る。(教会に来る道で・・・)
心に引っかかることは?大きな出来事?嬉しかったことやその反対など・・・
自分の身辺や国、世界の中での戦争、事故、天災や災害など
とりわけ感謝したいことは・・・

- 司祭 ① 皆さん、神聖な祭りを祝う前に、私たちの犯した罪を認めましょう。
司祭 ② 皆さん、私たちの罪を思い、感謝の祭儀を祝う前に心を改めましょう。

***会衆はしばらく沈黙のうちに反省し、告白する。(短い時なので、上記のように・・・)

- 司祭 ① 「全能の神と」、**会衆が続ける**。「兄弟のみなさんに告白します。私は、思い、言葉、行い、怠りによってたびたび罪を犯しました。聖母マリア、・・・」
② 「神よ」、**会衆**「罪深い私たちをあわれみ、いつくしみを示し、救いをお与えください。」
③ **司祭または先唱** 「打ち砕かれた心をいやすために遣わされた主よ、あわれみたまえ」
会衆 「主よ、あわれみたまえ」/ 「キリスト、あわれみたまえ」/ 「主よ、・・・」
続いて司祭は**罪のゆるしを宣言する**。「全能の神が私たちをあわれみ、罪をゆるし、永遠のいのちに導いて下さいますように。」 **会衆** 「アーメン」

- 4あわれみの賛歌 先唱 「主よ、あわれみたまえ」 会衆 「主よ、あわれみたまえ」
先唱 「キリスト、あわれみたまえ」 会衆 「キリスト、あわれみたまえ」
先唱 「主よ、あわれみたまえ」 会衆 「主よ、あわれみたまえ」
ラテン語 キリエ、エレイソン / クリステ エレイソン / キリエ、エレイソン

- 5 栄光の賛歌(グローリア) 主日と祭日祝日で歌うか唱える。 X待降節、四旬節、葬儀ミサ
**有名な「ミサ曲」などで、「キリエ・グローリア・サンクトゥス・アニュス・デイ」
＝あわれみの賛歌・栄光の賛歌・感謝の賛歌・平和の賛歌

- 司祭 「天のいと高きところには神に栄光」 ルカ福音書 2:14 羊飼いと天使
会衆一「地には善意の人に平和あれ」 会衆二「われら主をほめ、主をたたえ」
「主を拝み、主をあがめ」 「主のたいなる栄光のゆえに感謝し奉る。」
「神なる主、天の王、全能の父なる神よ。」 「主なる御ひとり子、イエス・キリストよ。」
「神なる主、神の小羊、父のみ子よ。」 「世の罪を除きたもう主よ、我らをあわれみ給え」
「世の罪を除きたもう主よ、我らの願いを聞き入れたまえ。」
「父の右に坐したもう主よ、我らをあわれみたまえ。」
「主のみ聖なり、主のみ王なり、」 「主のみいと高し、イエス・キリストよ。」
「聖霊と共に、父なる神の栄光のうちに。」 「アーメン」

イエスの誕生：天使が羊飼いにイエスの誕生を告知すると、天の大軍が加わり

ルカ福音書 2:8～ 羊飼いと天使 (新) P103

- 善意の人・・・神が好きでたまらない人々(＝わたしたちすべての人)に平和。
- 神のたいなる栄光とは、聖イレネウスは「人がイキイキと生きること。その人は神を見る。」と。聖ヨハネの孫弟子で、リヨンの司教。130年頃～202年まで。
- 父なる神、子なる神、聖霊なる神 ⇒三位一体：ばら：バラの木・バラの花・バラの香り
三位一体はキリスト教の教義(ドグマ)、聖書の中から理解したことを信仰上の教えとしたもの。
聖アウグスティヌスの話： 砂浜で小さな穴に海水を注ぎこんでいる子どもの姿

- 父なる神の愛・子なる神イエスの愛この双方の愛の交わりが聖霊（＝神の愛の息吹き）
- 「神の小羊、世の罪を除きたもう主」 洗礼者ヨハネがイエスを紹介
ヨハネ福音書 1：29～ 神の小羊

(新) P164

＊ ＊司祭、先唱者あるいは会衆の半分が歌いだし、一同が二つに分かれて交互に歌うこともよい。
(典礼聖歌の中には、AとBが記されているものもある。)

6 集会祈願（コレクタ） 司祭（司祭は会衆を祈りに招く。）・・・祈りましょう。

会衆はしばらく沈黙のうちに、各自の祈りをする。続いて、司祭は会衆の祈りを集めて祈る。

ミサ中に祈願は3箇所ある。集会祈願・奉納祈願・拝領祈願の3回。

集会祈願だけ、祈りの結びが

「聖霊の交わりの中で、あなたと共に、世々に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。」 「アーメン」となり、

他の奉納祈願・拝領祈願では「わたしたちの主、イエス・キリストによって」「アーメン」。

ミサは主イエス・キリストと共に司祭・会衆が父なる神に向かって、「感謝と賛美」を捧げる祭儀といえる。ミサには儀式的なところと、祭りのところ(歌など)がある。

教会では「歌は早く、祈りはゆっくり、説教は短かく」といわれるが、実際は反対が多い。

フランシスコ教皇は初めての使徒的勧告「福音の喜び」（カトリック中央協議会発行）の

第3章のⅡ 説教 Ⅲ 説教の準備について述べている。157 説教でイメージをうまく使えるようにすること、つまりたとえを用いることです。他方たとえば、私たちが伝えようとしているメッセージを、見定めやすく、受け入れやすくします。魅力的なたとえば、メッセージを親しみやすく身近で日常的なものにし、私たちの生活と結び付くようにします。